



宮崎宮境内ご案内図



本殿・拝殿 国指定重要文化財

延喜21年(921)、大宰少式藤原真材朝臣が神のお告げにより神殿を造営。長徳元年(995)大宰大式藤原有国が回廊を造営。現存する本殿、拝殿は天文15年(1546)大宰大式大内義隆が建立したものの。本殿は総建坪46坪の優秀な建物。九間社流造(きゅうけんしやながれづくり)、漆塗、屋根は檜皮葺(ひわたぶき)、左右には車寄せがある。拝殿は切妻造、檜皮葺で、梁組が二重になっている素木のまの端正な建物。

楼門 国指定重要文化財

文禄3年(1594)筑前領主小早川隆景が建立。三間一戸入母屋造(さんけんいっこいりもやづくり)、檜皮葺(ひわだぶき)で83坪余りの雄大な屋根を有した豪壮な建物。「敵国降伏」の扁額(へんがく)を掲げていることから伏敵門とも呼ばれる。

一之鳥居 国指定重要文化財

慶長14年(1609)、藩主黒田長政が建立。本宮の鳥居は、御本殿近くより数えて一之鳥居、二之鳥居と呼ばれる。この鳥居の柱は三段

に切れ、笠木島木(かさぎしまぎ)は1つの石材で造られ、先端が反り上がり、貫と笠木の長さが同じ異色の鳥居。「宮崎鳥居」と呼ばれている。

千利休奉納の石燈籠 国指定重要文化財

天正15年(1587)太閤秀吉が九州平定後、本宮に滞陣して博多町割りなどを行った。その時秀吉が催した箱崎茶会に随行した千利休による奉納と云われる。

あじさい苑

【毎年6月1日～30日開苑予定】平成の御大典を記念し、境内の西奥に造られた神苑。6月になると御社殿を借景としておよそ100品種のあじさいが、色とりどりに咲き競う。

神苑花庭園

園内は冬ばたん、春ばたん、ユリなど四季折々に咲く花々と、京都より取り寄せた松、苔、石を組み合わせた枯山水を楽しめる本格的な回遊式日本庭園。

湧出石 パワースポット

古くは地面から露出した部分で天変地異を占った。今はこの石を撫でると「運が湧く」という。

お潮井浜の真砂

博多では宮崎宮前の海岸の真砂を“お潮井”という。これをもって身を清める。春秋の社日祭の“お潮井”は特に尊いものとして扱われる。

龜山上皇尊像奉安殿

尊像：福岡県指定文化財
福岡市東公園“龜山上皇立像”の原型となった木彫像を奉安。この銅像の原型となる木彫像を製作したのが福岡県出身の彫刻家・山崎朝雲。宮崎宮には龜山上皇より「敵国降伏」と記されたご宸翰が納められている。

※ご宸翰(ごしんかん：天皇自筆の書状)

御祭神

応神天皇(おうじんてんのう) 八幡大神
神功皇后(じんぐうこうごう) 応神天皇の母君
玉依姫命(たまよりひめのみこと) 海の神・神武天皇(じんむてんのう)の母君

宮崎宮の由緒

宮崎宮は宮崎八幡宮とも称し、大分・宇佐神宮、京都・石清水八幡宮とともに日本三大八幡宮に数えられます。ご祭神は筑紫国蚊田(かだ)の里、現在の福岡県宇美町にお生まれになられた応神天皇(第十五代天皇)を主祭神として、神功皇后、玉依姫命をお祀りしています。近年、全国より崇敬を集めるとともに、玉取祭や放生会大祭などの福博の四季を彩る杜(もり)として広く親しまれています。

龜山上皇尊像【福岡県指定文化財】



龜山上皇尊像奉安殿



楼門【国指定重要文化財】



宮崎宮



hakozaikigu.official

はこざきぐ 検索
hakozaikigu.or.jp



@hakozaikigu_offi

宮崎宮ウェディング

宮崎宮御本殿または儀式殿での神前結婚式をプロデュース。結婚式に関するお問い合わせは、お気軽にご相談ください。
TEL.(092)632-5588

宮崎宮清明殿

境内に佇む、緑に包まれた披露宴会場「宮崎宮清明殿」。厳かな挙式の後に、和やかでゆつくりとした時間を過ごせます。
TEL.(092)632-5588

宮崎宮迎賓館

四季折々の日本庭園の景色を眺めながらお食事を楽しめる宮崎宮迎賓館。貸し切りのレストランウェディングやパーティも好評です。
TEL.(092)651-1100

日本三大八幡・開運と勝利の神

宮崎宮

〒812-8655 福岡市東区箱崎1-22-1 Tel.092-641-7431

交通ご案内

- <福岡市営地下鉄> 箱崎宮前駅下車…徒歩3分 [1番出口]
- <JR九州> 箱崎駅下車…徒歩8分
- <西鉄バス> 箱崎下車…徒歩3分
- <JR九州バス> 箱崎1丁目下車…徒歩2分